



「海外で・日本で・こんなところが困った、 こんなところが良かった」～帰国子女アンケートより～

帰国子女の多いエリアとして知られている宮前区には、帰国子女のお母さん方が協力しあいながら、親子で日本の生活や学校に慣れる努力を重ねているグループがあります。SIGNALでは、そのようなママ友グループ「コネクト[※]」メンバーの帰国子女4人とお母さん方にアンケートをお願いし、帰国子女の苦労や生活の違いについてうかがいました。

※コネクトについてはP7「民間団体紹介」を参照。

- ①在留期間 ②現地の学校 ③海外生活で大変だったことは？ ④海外生活でよかったことは？
- ⑤帰国してよかったことは？ ⑥帰国して大変だったことは？ ⑦将来の夢は？ お母さんの声

インドネシア・ジャカルタ SSさん* (中学2年生 女子)



- ①1歳～6歳
- ②インターナショナルスクール(英語、インドネシア語)
- ③2才からプレスクールに通ったので順応が早く、困ることはほとんどなかった。
- ④学校生活は自由で楽しかった。インドネシア人だけでなく欧米各国の友達ができた。
- ⑤日本で外国人のサマーキャンプに参加してもコミュニケーションを取れた。
- ⑥最初は先生の言うことがわからず授業について行くのが大変だった。ピアノや縄跳びができずに苦労した。
- ⑦父のように色々な国へ行って仕事がしたい。

- ・日本の学校はルールが細かく覚えるのが大変だった。みんなが幼稚園で教わるピアノや縄跳び、季節の行事や歌や遊び等、日本で過ごしていたら身につけていたであろうことが経験できなかった。親でさえ、そのことがわかっていなかった。
- ・インドネシアは子どもをとて大切にしてくれる国で、伸び伸びと生活することができたのではないかなと思う。

*SSさんは幼少期だったのでお母様が記入

中国・烟台^{えんたい} RMさん (中学3年生 男子)



- ①3歳～8歳
- ②インターナショナルスクール(英語、中国語)
- ③最初は言葉がわからずコミュニケーションをとるのが大変だった。
- ④海外に友達ができ、日本では見られない建物や景色、違う文化を体験できた。
- ⑤安心して外に出かけられる。
- ⑥日本語が少し苦手だった。流行が良くわからなかった。土足厳禁など、学校のルールの違いに困った。
- ⑦起業家になりたい。

- ・実際に異文化や外国人と接することで国際的な感覚が身に付いたと思う。外国人の温かみに触れる等、人生でかけがえのない貴重な体験ができた。
- ・体育、美術などの実技教科が日本に戻った時にできなかった。簡単な日本語が抜け落ちることがある。現地は医療が整っていないのでとても不安だった。

アメリカ・サンディエゴ FYさん (中学2年生 男子)



- ①4歳～9歳
- ②アメリカ現地校(英語)
- ③「あいうえお」を覚え始めた時に突然、英語圏で暮らすことになった。読み書き、会話ができず途方に暮れた。
- ④英語を話せるようになり、文化の違う友達と過ごせたのは一生の宝になると思う。
- ⑤たくさんの行事や色々な科目が学校だけで学べる。
- ⑥リコーダー、鉄棒、書写等は海外ではなかった。体操服への着替えや給食当番など学校の習慣に慣れるのが大変だった。
- ⑦フランス語を勉強してみたい。

- ・治安上、学校へ毎日車で送り迎えするので親子で過ごす時間が長かった。メキシコ国境の町だったので母国と合わせ日常的に三つの文化を小さい頃から体感していた。
- ・カーチェイスに巻き込まれたり、銃社会を実感したこともある。先生が机に座って授業していたり、文化の違いや家庭環境の多様さを目の当たりにした。

シンガポール NYさん (中学2年生 男子)



- ①3歳～9歳
- ②インターナショナルスクール(英語、中国語)、日本語補習授業校
- ③シンガポールは常夏の国のため、春、秋、冬の草花や昆虫等に触れる機会がなく四季を感じることはできなかった。
- ④色々な国の友達と交流できた。東南アジアの様々な国へ行けた。
- ⑤日本語で友達と遊べる。日本食が美味しい。
- ⑥鉄棒、跳び箱、縄跳び、ハーモニカやピアノ等の授業は海外ではなかったので最初は苦労した。
- ⑦(来年上海に行くことになりました)色々な国々で生活し、その中で経験したことを活かせる仕事ができたらいいと思う。

- ・シンガポールは安全な国であったので、初めての海外生活だったが、楽しく過ごせた。多文化国家なので、各国の風習、習慣を自然と感じることができた。
- ・英語が共通語だったので英語能力が身についた。
- ・並んで順番を待たない、新品のものでも壊れているなど、日本では当たり前だが当たり前ではない場合が多く、最初は戸惑った。

辻 麻里子さんのコメント[宮前区で英語塾主宰。ご本人も帰国子女。]

川崎市のブランドメッセージ「いろいろって未来」のキーワードは「多様性」。このアンケート結果からは「英語の得意な帰国子女」と一括りにされがちなお子たちが、実は海外でも日本においても、さまざまな文化や習慣、言葉の「多様性」を経験して、その違いから生まれる戸惑いや苦労を乗り越えた、多様性の価値を身をもって知る子どもたちだということが読み取れます。今後、この経験がどう花開いていくのか、楽しみでなりません。